

平成31年度第1回研修会・交流会

ビオトープ管理士交流会2019

新潟県ビオトープ管理士会の20年

～レポートを提出してください！～

藤塚 治義氏 新潟県ビオトープ管理士会 世話人



新潟県ビオトープ管理士会は、会員相互の発意と協力により活動するという方針で活動しており、会則、役員、会費は設けていません。ただし、骨格となる方針は最初に打ち出しており「特定の目的を掲げない」「特定の指導者を仰がない」など多くの方が参加しやすいものとなりました。

主な活動は、年1～2回の勉強会およびシンポジウム(懇親会)で、勉強会の参加者には感想を提出してもらい、これを取りまとめた報告書を全会員へ発信しています。勉強しようというまじめな呼びかけでは参加者が増えない、一方で飲み会をしましょうというだけでも集まりにくい。2つをセットにすることで、新潟県ビオトープ管理士会は20年にわたり40回のシンポジウムを開催できています。

このような勉強の場としてだけでなく、新潟県ビオトープ管理士会は情報の収集と発信の場としても機能しています。なぜこのような事ができるかという点、お金をもらっていないからです。講師料が出るとなると、発表者は気楽に引き受けられませんが、手弁当でお願いする場合は、自分がやっている活動を話せば良いだけになります。金銭的なプラスはありませんが、会員に送信される報告書が、会員だけでなくその関係者、環境系の200人以上の目にとまるというメリットがあります。

このほかにも「メーリングリストを使って会員に環境系の質問ができる」「メーリングリストで送られてくる報告書で勉強会の概要がわかる」「会員としての義務や金銭的な負担がない」などのメリットがあるため、新潟県ビオトープ管理士会は長く続けてこられたのだと考えます。

活動の幅を広げるために様々な立場の方から実例を学ぼうという主旨のもと、4月13日(土)に国立オリンピック記念青少年総合センター(渋谷区)で、ビオトープ管理士交流会2019が開かれました。ここでは講演を要約し、会員のみなさまへご紹介いたします。

自然を知ろう！

～遠くの大自然より身近な小自然～

池口 直樹氏 日本ビオトープ管理士会 近畿支部 会長



近畿支部は、規約を設け、役員を選出し、年会費をいただいて運営を進めています。主な活動は研修会や自然観察会の開催、拠点施設での保全活動など、平成30年度は計25回以上の活動を実施しました。

70名強の会員の多くが社会人であり、活動できるのは週末くらい、また自分の活動フィールドを持っていない方も多いという状況であり、継続的に活動できる場の提供も、本支部の役割のひとつと考えています。そして、その場は、身近な開発跡地などに設定しており、かつてその地に暮らしていた生きもの達を再び呼び戻そうと、手作業を原則としながら自然の再生や復元に取り組んでいます。

さらに、その再生等の過程を多くの方々にも体感してもらおうと、会員が中心となって自然観察会を開催しており、身近な場所で、安心して自然とふれあえる、いわば「自然のエントランス」づくりを目指して取り組んでいるところです。

定例の保全活動日は「毎月第3土曜日」と決めるなど、会員が予定を立てやすいように配慮しており、また地元や企業(南海電鉄様ほか)の方、行政関係の方など、多くのボランティアが集まって、一緒になって汗を流しています。一方で、この活動から派生して、間伐材を使ったシイタケ栽培やミニ水田で育てた餅米を使っての餅つき大会など、参加者が楽しめるような工夫もしています。

本支部の主な活動は以上のとおりですが、日時と場所が明確な「拠点」での活動を中心に、広く近畿地区一円で自然観察会や研修会を開催するなど、会員だけでなく地元の方々も参加しやすい環境づくりに配慮することで、活動をより一層盛り上げていきたいと考えています。

ビオトープ管理士と建設業

鈴木 則志 氏 (株)加藤建設 GM室
自然環境課 兼 広報課 主任



(株)加藤建設は、社員のほぼ半数、156名がビオトープ管理士の資格を取得しています。自然環境に力を入れている建設会社ということで愛知県より依頼を受け、尾張西部生態系ネットワーク協議会の幹事兼事務局を務めています。尾張西部は水田地帯なのでサギやケリを象徴種として環境を整えていこうと考え、ワークショップや自然観察会、フォーラムを開催して普及啓発に努めています。

弊社の環境への取組のひとつにエコミーティングがあります。より良い自然環境、住民環境、コミュニティづくりを実現するため、工事を行う際は現場スタッフはもちろん総務や経理なども現場を視察し、意見をとりまとめて施工に反映しています。

一例ですが、橋脚の補強工事の現場を視察したところ、橋脚下の玉石がヨシ原を分断していました。そこで発注元の許可を得て玉石を撤去したところ、ヨシ原がつながっただけでなく、準絶滅危惧種のタコノアシが増加しました。玉石はフとんかごに詰めて護岸へと再利用することで、生きもの新たなすみかを提供でき、処分費用の低減できました。

また、砂防堰堤工事の際には、下流側の湿性環境を保全するため、板状の堰を櫛型にすることで水の流れを確保しました。この時は調査や生物保護などのコストが高まりましたが、前述した施工方法の工夫により資材費が抑えられ、収支を合わせています。

弊社はこのように、グレーインフラの中にグリーンインフラを意識し、双方の特性を活かしたインフラ整備を行い、ビオトープ管理士としてこれからどう活動していくのかも議題としていきたいと考えております。

ストーリーのあるビオトープ

～ A biotop filled with stories ～

吉田 文雄 氏 神奈川県立愛川ふれあいの村 学芸員



ビオトープにはいろんな物語があります。それを子どもたちと見つけていくというのが私の活動です。主に愛川ふれあいの村(神奈川県)という神奈川県の野外教育施設がフィールドです。開所当時に76種、1400本の苗木が植えられたのが特徴で、現在はその木が大きく育っています。

ここには年間約13万人が訪れ、小学校や中学校などの児童・生徒さんたちが大勢いらっしゃいます。その関係で、学校からビオトープ造成や自然学習などの相談を受けることもあります。

来所した子どもたちには、自然の重要性を理解してもらう前に自然を好きになってもらいたいことから、一緒に面白いものを探すようにしています。春にはスズメが桜の花をちぎって蜜を吸う姿を鑑賞できます。メジロやヒヨドリは嘴が細いので蜜を吸うことができますが、スズメは嘴が太いのでこんな風に工夫をする。子どもたちが自分で不思議なものを発見することもあります。秋に実が弾けたゲンノショウコを観察していた時に、何か虹色に光るものがありました。なんだろうと近づいてみたところ、蜘蛛の糸が光を反射して光っていたんですね。

また、子どもたちに自然を好きになってもらう仕掛けのひとつに、木ラリーというレクリエーションがあります。木の特徴が書かれた紙と地図を頼りに該当する木を探し、探した木に書かれた名前とその感想を紙に書き込んでもらいます。参加した子どもたちは木への愛着がわき、大人になってから様子を見に来た人もいました。

最近の子どもたちは自然体験が不足していますが、このように少しでも多く自然に触れてもらい、その不思議さに気づき、興味関心を高めてもらいたいと考えます。

これからのビオトープ管理士と管理士会がめざすもの 高山 光弘 氏 日本ビオトープ管理士会 会長

私からは、これからビオトープ管理士また日本ビオトープ管理士会が、どのように進んでいけばいいのかということについて話したいと思います。

日本ビオトープ管理士会が発足した21年前に比べ、「ビオトープ」という言葉は随分と社会に浸透し、ビオトープ管理士の資格が国土交通省登録資格となるなど、環境に対する意識はずいぶん高まりました。

とは言え多くの市民は、自然は好きだが自分とは関係ないと思っています。企業においても自然は大事だとは言うものの、実際にはあまり踏み込んで活動できていません。自然の大切さは理解できるが、何をしたら良いかわからないというのが実情です。

そうした中でも、一部では自分の庭や企業の敷地内に在来の樹木や野草を植えるなどして、自然再生を試みる機運が高まっています。ビオトープ管理士には、このような動きをとらえ経済活動に取り込んでいくことが求められます。

我々は、建設業やコンサルタント、造園業などそれぞれの立場で活動していますが、仕事を受注する側であると同時に、主な発注元となる行政、議会に対して働きかけを行える市民でもあることを忘れてはいけません。

海外の事例ですが、フィラデルフィアの「グリーンシティ・クリーンウォーター・プログラム」があります。ここではグリーンインフラを重視し、雨水を活用する施策を行っています。将来的には緑豊かな自然の街にするのが目

的です。ビオトープ管理士には行政の方もいらっしゃいますが、このようなことを施策に盛り込んでいただき、その中にビオトープ管理士の役割を組み込んでもらえれば、経済としてまわっていくと考えます。

行政を動かす以外にも、行動経済学の視点からのアプローチもあります。ブラジルではバイオエタノールがガソリンより安いいため、バイオエタノールは環境に良いというアピールをしなくても、おのずからバイオエタノールを選択します。これにより、二酸化炭素の排出削減につながります。このような行動経済学の仕組みをビオトープ、自然再生のなかに組み込んでいくこともビオトープ管理士のテーマだと考えます。

世界的にSDGsを意識した環境保全や経済活動が重要となっていますが、これを推進していくのもビオトープ管理士の役割です。そして、めざすべき将来像を実現するためには、欠けている要素を洗い出して補完する視点が重要です。たとえば目標実現のために法律の整備が必要ならば、行政に働きかけを行うなどするわけです。また、この考え方は個人の資質向上についても同様で、自身の実践経験が少なければ研修会などで経験を積むのが良いと思います。

日本ビオトープ管理士会は、めざすべき将来像の実現とますますの会の発展に向け、ビオトープ管理士の活用推進、会員の資質向上、経済の中にビオトープを組み込むための提言などを積極的に進めていきたいと考えます。



日本ビオトープ管理士会
Association of Biotope Planners and Builders of Japan

ビオトープ管理士 交流会 2019

活躍するビオトープ管理士たちの声
平成31年度第1回研修会・交流会

ビオトープ管理士の活動のしかた、仲間のつくり方を学びます。
資格をもっと活かしたい方、受験を考えている方、
ぜひお気軽にご参加ください。

平成31年4月13日(土)

- 第1部 講演 14:00 - 17:00 (13:30 受付開始)
第2部 懇親会 17:15 から
[会場] 国立オリンピック記念青少年総合センター
センター棟 401 室
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1
[定員] 定員 80 名 (要事前申込、先着優先)
[参加費] 第1部 2,000 円
第2部 4,000 円程度



ビオトープ管理士 交流会 2019

当会の会員に、ビオトープ管理士の活動のしかたを、事例をもとにお話いただきます。
第2部の懇親会では、志を同じくする方々と知り合い、活動やお仕事の幅を広げることができます。
資格をもっと活かしたい方、ビオトープ管理士資格試験の受験を考えている方は、ぜひご参加ください。



- 14:00 第1部 開会
- 14:05 講演1 「新潟県ビオトープ管理士会の20年」支部の活動の事例(1)
—発足から今後の展望まで—
藤塚 治義氏 新潟県ビオトープ管理士会 世話人 [1級計画]
- 14:35 講演2 「自然を知ろう！」支部の活動の事例(2)
—遠くの大自然より身近な小自然—
池口 直樹氏 日本ビオトープ管理士会 近畿支部 代表 [1級計画/1級施工]
- 15:05 休憩
- 15:15 講演3 「ビオトープ管理士と建設業」企業の活動の事例
—企業に所属するビオトープ管理士ができること—
鈴木 則志氏 株式会社加藤建設 GM室 自然環境課 兼 広報課 主任 [1級施工]
- 15:45 講演4 「ストーリーのあるビオトープ」一人ひとりの活動の事例
—A biotope filled with stories—
吉田 文雄氏 神奈川県立愛川ふれあいの村 学芸員 [1級計画/1級施工]
- 16:15 講演5 「これからのビオトープ管理士と管理士会がめざすもの」総括
—次の10年に向けて—
高山 光弘氏 日本ビオトープ管理士会 会長 [1級計画]
- 17:00 第1部 閉会
- 17:15 第2部 懇親会 (参加費 4,000円程度)
お酒を酌み交わしながら、楽しく交流しましょう。



参加申込書 下記にご記入のうえ、FAX または郵送にて日本ビオトープ管理士会までお送りください。
公式サイトからもお申し込みいただけます。

フリガナ
氏名

所属機関
役職

連絡先 〒
(勤務先・自宅)

携帯電話

お持ちの「ビオトープ管理士」の種類
級 部門

日本ビオトープ管理士会会員

懇親会 (事前申込制)
事前にお申込いただいていない場合、
ご参加できない場合がございます。

参加